

プラスチック代替パッケージの提案に注力

中央工芸企画

1969年創立の中央工芸企画は、パッケージやプロモーション用POP、販売什器などの企画制作を中心に事業を展開している。3次元的構造を要する製品の企画開発・デザインに加え、埼玉物流センターでは食品や化粧品をはじめとする、数多くのパッケージのセットアップ加工も行っている。

同社では、高級化粧品のパッケージも数多く手がけてきたが、環境への意識の高まりから、「ウレタンやPETの使用をやめて、紙へ切り替えたい」といったニーズも高まりつつあるという。今までウレタンの台座を採用していた高級クリームにおいても、紙の台座への切り替えを行った（写真下）。

化粧品以外でも環境に配慮した形での要望は多い。カトラリーのパッケージにおいても、「ウレタンの使用を止め、環境に配慮した代替品に切り替えたい」という要望があったという。

さらに現在、コンビニエンスストアやドラッグストアなどに吊り下げて陳列する商品向けに、紙製吊り下げ式パッケージを開発し、提案を進めている（写真上）。真空成形・射出成形によるプラスチック容器を使うことなく、紙だけで商品を固定することができるサステナブルなパッケージで、当初はボールペンを出発点として開発されたが、サステナブルなニーズが高い化粧品分野への提案にも踏み切った。



PAT.P

紙製でありながら耐久性にも優れており、店頭で商品のみが抜き取られる盗難を防止するため、ホルダー裏面の切り込みからパッケージを破らないと商品を取り外すことができない構造となっている。さらに、ホルダー下部に底面を設けることもできるため、吊り下げずに自立陳列することも可能だ。

「様々なアイテムに対応できるように、試作を繰り返し、形状に合わせてパッケージ設計を調整してきた。ボールペンからスタートしたものの、アイライナーやリップなどの細長いアイテムだけでなく、クリームや化粧水などにも対応可能だ」（同社）

ほかにも、プラスチック使用量をかなり削減でき、接着剤もホチキスも不要なプリスター台紙など、環境に配慮した製品を数多く展開している。

また、製品だけでなく、社内においても環境への取り組みに注力している。印刷については協力会社に依頼しているが、試作段階における紙の使用量も少なくないことから、端切れなどは古紙としてリサイクルできるように分別を徹底しているほか、古紙として回収できない紙については、ウォールアートなど新しい形に作り変えて、廃棄せずに活用できる方法を検討している。

「当社では、紙製品を中心に取り扱っているため、プラスチック代替品の提案を通じて、皆様のサステナビリティ活動に貢献していきたい」（同社）

